

届け 世界の果てまでも

令和2年 9月 1日

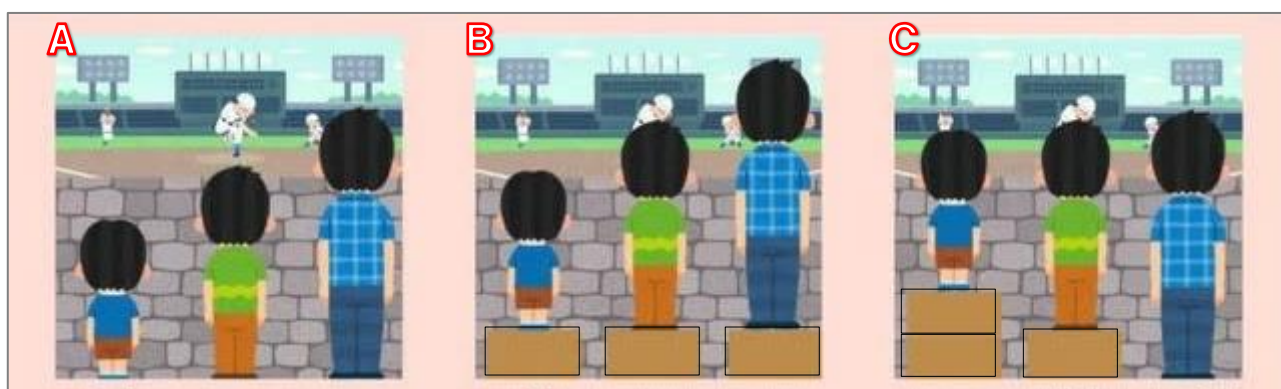
No. 28

文責 校長 飯久保一男

9月より、また、タイトルをマイナーチェンジしました。

合理的配慮について

その日、6年生と1年生の兄弟ともに宿題がありました。一緒に帰ってきて、同時に宿題を始めましたが、兄のほうが内容が難しく、量もあるので、時間がかかりました。当然、弟が早く終わり、先に遊び出しました。兄はこれをずるいとは言いません。家の手伝いにしても兄が頼まれます。能力的にも、物理的にも兄のほうが優れているからです。この兄と弟は【平等】といえるでしょうか？ また【公平】といえるでしょうか？ 似て非なる【平等】と【公平】の違いがよくわかる絵があります。



3人の子どもが野球を観戦しようとしてしました。3人の前には壁がありました。

Aの絵 何も配慮をしないと背の低い2人の子は見えません。

Bの絵 木箱を3つ用意して【平等】に1人が1個ずつ使うようにしました。真ん中の子は見えるようになりましたが、左の背の小さい子はまだ見えません。

Cの絵 背の大きい子が木箱を使わないで、その分、背の小さい子には木箱を2つ使うようにして、みんなが【公平】に見えるようにしました。これで3人とも同じ条件で観戦できます。

小さい子が木箱を2つ使うのは、ずるいことでしょうか。木箱を使わない背の大きい子からの文句はないはずです。本人の努力ではどうしてもできない能力の差がある場合、【平等】だけではない配慮が必要です。

こういう配慮のことを「合理的配慮」といいます。学校など教育の現場ではよく使われる言葉です。何かしらのハンディキャップがある場合は、それに対する配慮が必要になります。そこで【平等】にしようということ、均一にしたのでは、配慮をしたとはいえない場合が出てきます。それでは【公平】ではないので、【公平】になるように考えようということが「合理的配慮」ということだと私はとらえています。



実は、この3枚の絵には、もう一枚、4枚目の続きの絵があります。左のDの絵のように、網目のフェンスに変えれば、背の大きい子と小さい子の差は生まれません。こういった、その差が生じない環境（ユニバーサルデザイン）が整えられたら、ハンディキャップはハンディキャップではなくなります。



もう一つ「合理的配慮」がよくわかる絵があります。左から車いすで生活している人、背の大きい男性、中背の女性、背の小さい子どもの4人が自転車に乗ろうとしています。

上の絵では【平等】に均一の自転車が4人に与えられました。女性にはちょうどいい大きさですが、子どもには大きすぎ、男性は小さくて乗りにくそうです。もちろん、車いすで生活している人は乗れません。

下の絵ではそれぞれに適した自転車が準備されました。これで【公平】に全員が自転車に乗れます。「合理的配慮」がなされ、ハンディキャップがハンディキャップではなくなる例です。

例えば、私も、メガネがこの世から無くなれば（発明されていなければ）大きなハンディキャップになります。たぶん、教員はできませんし、車の運転もできません。生活の様々なことが不自由になるはずですが、メガネがあるので、ハンディキャップだと感じずに生活できているのです。

何かしらのハンディキャップをもった人が、それをハンディキャップだと感じなければそれはハンディキャップではなくなります。車いすで生活している人が、不自由なく移動できるのであれば、それは障害にはならないかもしれません。バリアフリーとかユニバーサルデザインという話を聞くことがありますが、そういう世の中になれば、【公平】かつ【平等】であるといえるのではないのでしょうか。

1年生から6年生まで発達段階が大きく違う子どもたちが一緒に生活する小学校では、こうした配慮が必要になります。また、本校には、特別支援学級が4学級あります。他のクラスの子と一緒に活動するときには配慮が必要です。それらの配慮をしながら、交流する中で、お互いがお互いから学び合ってほしいと思っています。さらに、クラスの中にも個人差がありますので、クラス内でも配慮が必要です。

まず、教職員と保護者が「合理的配慮」ということを正しく理解して、さらに、子どもたちも子どもたちなりに理解して、お互いの違いを認め合って付き合っていけると、ハンディキャップをもつ子も含め、全員が気持ちよく過ごせる学校になります。そして、そういう子どもたちが大人になれば、日本はもっとステキな国になります。



「合理的配慮」について調べていたときに、こんな文章を見つけました。ある大学の先生の言葉です。

授業中に大量の段ボールを運ぶ必要があった。授業に来ていた学生の男女に運ぶことをお願いした。みんなで協力して何度も往復して運び出しを行っているとき、ある一人の男子学生が早々に自分の席に戻りスマホをいじりだした。

「どうしたの？」

とまだ段ボールが残っているのにどうしてやめるんだと思い、歩み寄った。すると彼は

「もう俺は〇個運びました。人数で割ったら一人〇個ですよ？」

って、うん、女子が運んでなさすぎじゃないですか？ 逆差別ですか？」

と前のめりで言った。

とにかく、人間が小さい。平等を盾にした怠惰であると感じた。

【平等】特に「男女平等」ってこういうことではないですよ…。

